

日本近代詩の父 萩原朔太郎ゆかりの地・前橋市街を歩く

和'S YAMATO

(わづやまと)

夏号
2017



2017年NHK大河ドラマ
一特集「おんな城主直虎」

- 家康ゆかりの浜松を訪ねて
- 井伊家ゆかりの御前崎を訪ねて
- おんな城主直虎 人物相関図 年表
- 一お客様紹介一
岡直三郎商店 大間々工場 様
青森県中泊町 様
- 萩原朔太郎ゆかりの地・前橋市街を歩く

「前橋・夏の風」

須藤和之 画

株式会社ヤマトから見える榛名山を背景にして、
夏の風にそよぐタチアオイと蜂を描きました。



萩原朔太郎の像 奥は前橋文学館の正面玄関。



前橋文学館の外観 萩原朔太郎は口語自由詩を確立し、近代詩史に大きな足跡を残しました。前橋は平井晩村、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉ほか多くの詩人を輩出しており、「近代詩のふるさと」と言われています。前橋文学館は、これら詩人たちの資料を展示し、特に朔太郎資料は質量ともに充実しています。

前橋市出身で近代日本を代表する詩人、萩原朔太郎(1886～1942年)の原稿や愛蔵品を展示している前橋文学館の近くに、萩原朔太郎記念館(生家)が移築・公開されています。同記念館は敷島公園(前橋市)ばら園内から2017年4月に移築されました。朔太郎ゆかりの施設が至近距離に集まることにより、散策しやすい環境が整いました。記念館では、朔太郎の生家の書斎、離れ座敷、土蔵の3カ所が公開されています。朔太郎の生家は前橋市北曲輪町(現千代田町2)にありました。大正2年(1913)に、みそ蔵として使われていたものを書斎に改造し、西洋式の建築で、当時としては先進的なものでした。朔太郎は大正3年から約6年間、この書斎で執筆活動を行い、詩集「月に吠える」などを執筆しました。離れ座敷は客間として使われ、北原白秋や若山牧水、室生犀星ら文人が訪れ、親しく語らったということです。



書斎
「月に吠える」「青猫」などの作品は主にこの部屋で書かれました。



土蔵
戦時中の前橋空襲の際、この土蔵は被害にあらず、蔵内に保存されていたノート、原稿など多くの資料が焼失を免れ、今日に伝えられています。

前橋文学館

- 住所 前橋市千代田町3丁目
- 開館 午前9時から午後5時まで
- 休館 水曜日・年末年始
- 常設展観覧料 一般・大学生 … 100円
高校生以下 … 無料
- 問い合わせ 前橋文学館 (tel.027-235-8011)



和'S YAMATO 夏号 (第33号) 2017

わづやまと
『和'S YAMATO』の由来
ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WAJ」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

和'S YAMATO 2017 春号 / 2017年6月発行
発行:株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

おんな城主 直虎

武田、徳川の対立に巻き込まれる

2017年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」は、徳川四天王の一人として徳川家康を支えた井伊直政の養母といわれる井伊直虎が主人公である。戦国時代、井伊家の存続を図るためにおんな城主になった直虎の姿をドラマティックに描いている。

遠江に侵攻した徳川家康が井伊領も傘下に治める

永禄十一年（一五六八）、井伊直虎は今川家の指示により地頭職と虎松（後の井伊直政）の後見を解かれ、代わりに小野恒馬守政次が地頭職に任命される。政次は今川家の指示で、謀略を用いて井伊直親を死に追いやった張本人で、いざなは自身が地頭職に就くため、今川家との密約があったとされている。大河ドラマ「おんな城主 直虎」の中では、高橋一生が演じる小野政次は、井伊家の乗っ取りを画策しているのではなく、直虎を案じて描かれている。

今川家は井伊谷から井伊家を排除することを画策しているため、虎松の命を狙つてくることは明らかだ

った。この時、虎松は直虎とともに龍潭寺の松岳院に身を寄せていたが、今川家の追求から逃れることは難しい状況だった。虎松の命を奪われれば、井伊家は断絶してしまう。直虎は井伊家の存続を図るために、虎松を奥三河の鳳来寺に預けることにした。

虎松の生母・永護院（しの）は、徳川家臣の松下清影と再婚、井伊家再興に望みをかけるのだった。

家康は信玄に完敗するが、信玄の死で窮地を脱す

武田と徳川の二大勢力が駿河、遠江を支配し、一帯は安定したかに見えたが、両雄の同盟は短期間で終わることとなる。徳川と同盟を結んでいる織田信長は、室町幕府の足利義昭と対立しており、義昭は信玄を始めとする全国の有力武将に信長追討令を発する。信玄は義昭の要請を受け、元亀三年（一五七二）十月に西上作戦を実行、徳川家康を攻撃する。信玄は二万五千の大軍を率いて出陣し、井伊谷に攻め込んだ。井伊谷城を守っていた井伊谷三人衆は浜松城に退却した。遠江に侵攻した信玄は、徳川方についている土豪を攻撃する一方で味方にづくよ

う持ちかけ、寝返りが続出し、徳川軍は崩壊の危機となる。信長は、遠江はあきらめて三河に退却するように促すが、家康はあきらめずに武田軍を浜松城で迎え撃ち、劣勢を挽回しようと準備を進めた。

武田軍は徳川軍の重要な拠点の一つである二俣城を攻撃し、二ヶ月に及ぶ攻防戦の末、大軍を擁する武田軍が勝利二俣城は陥落する。武田軍は二俣城から浜松城に進むかに見えたが、突然進路を変え、三方ヶ原の方向に向かった。家康は劣勢を覚悟して浜松城で迎え撃とうと臨戦態勢をとったが、浜松城からそれたのを好機と

化する。今川家の勢力が衰えているのを好機とみた武田信玄は、今川家の同盟を破棄し、三河の徳川家康と示し合わせ、東西から今川領の駿河国と遠江国に向けて侵攻を開始する。用意周到な家康は遠江に侵攻するにあたり、地元の情勢に通じている今川方の武将であった菅沼忠久、鈴木重時、近藤康用の三人、通称「井伊谷三人衆」を味方につけた。菅沼は父の代から井伊家の家臣、鈴木の妹は井伊直親の母であったとも伝えられているように、三人は井伊家との縁が深く、井伊家を追い詰める今川家とは相容れない立場であったことなどが想像できる。井伊家を今川から守るために、家康に付くのが得策と考えたのかもしれない。

永禄十一年の暮れから始まった武田軍と徳川軍による今川領侵攻は、半年後の永禄十一年（一五六九）五月、掛川城に籠っていた今川氏真が降伏し終了、大名としての今川家は滅亡する。その結果、駿河国は武田、遠江国は徳川が支配することとなる。

今川家の衰退と徳川家の台頭

JR浜松駅前に開設された「浜松出世の館」では、等身大の井伊直虎と記念写真が撮れるコーナーがある



（秋号に続く）



浜松城

徳川家康が築いた出世城

浜松城は、三方ヶ原台地の東南端にあり、徳川家康が築いた。永禄十一年（一五六八）に三河から遠江に入り、元亀元年（一五七〇）長子の信康に岡崎城をゆずり、自らは浜松城に居城。駿遠経営の本拠と定めた。家康は一九歳から天正十四年（一五六六）の四十五歳まで十六年間にわたり浜松城に在城し、この期間に三方ヶ原での敗戦をはじめ厳しい戦いが続き、家康にとって試練の期間となつた。

江戸幕府が開かれてからは、諸大名が城を守り、浜松藩政二百六十年間に再任を含め二十五代の城主が在城した。在城中に老人、寺社奉行に四人と幕府の要職に登用され、浜松城が出世城と呼ばれるようになつた。天保の改革で有名な水野忠邦は、唐津藩主時代に昇格のため願い出て浜松藩主となり頭角を現し、後に老中となつた。浜松の俳人で「今芭蕉」といわれた松島十湖（嘉永二年・一八四九年）大正十五年（一九二六）は「はま松は 出世城なり 初松魚（がつを）」と詠んでいる。



浜松城



天守門



復元された井戸
天守閣の地下にある



家康像



天守閣の最上階は展望室になつておつり、四方が一望できる。東側は本丸跡、二の丸跡が見える

天守門の脇には巨石があり、この巨石は鏡石と呼ばれている。城の壮大さや城主の権力を強調するため意図的に大きな石を用いたといわれている



浜松城公園の地図

引間城本丸跡

戦国時代の重要な拠点

鎌倉時代の浜松は、「ひきま(ひくま)」と呼ばれていた。戦国時代、この町を見下ろす丘の上に、引間城が築かれ、歴代城主には尾張の斯波氏に属する巨海(こみ)氏・大河内氏、駿河の今川氏に属する松下氏、飯尾(いのお)氏などがいた。斯波氏と今川氏の抗争の中で、戦略上の拠点となっていた。少年時代の豊臣秀吉は、松下氏の松下加兵衛(頭陀寺城城主)に連れられ、引間城を訪れている。

徳川家康が最初に居城としたのも引間城だ。元亀元年(一五七〇)に拠点を岡崎から浜松に移し、引間城を拡大して城名を浜松城に改めた。その後、引間城は古城と呼ばれ、米蔵などに使われていた。

明治十九年(一八八六)に旧幕臣の井上延陵(えんりょう)が、本丸跡に家康を祭神とする元城町東照宮を創建した。

現在では「出世神社」と呼ばれ、多くの参拝者が訪れている。



開始合団とともに各町のたこが一斉に舞い上がる。凧揚げ後、まつり衆は夜の屋台御殿を引き回す。



夜のとぼりに包まれた市内中心街を練り進む



5月3日のまつり初日は40町の御殿屋台が登場

電車の高架をくぐる屋台

凧揚げには174町が参加(会場は浜松市南区)

浜松まつり

初夏の風物詩

浜松市の伝統行事・浜松まつりが5月3日(水)~5日(金)まで行われ、初子の誕生などを祝つ「たこ揚げ合戦」や華やかな御殿屋台が夜の中心街に登場、市内は熱気に包まれました。初日の3日は、たこ揚げ会場に約29万人、御殿屋台の引き回しに約27万人、関連イベントに約22万2千人の計約78万2千人の人出がありました。

① 浜松元城町 東照宮(引間城跡)

出世の聖地と呼ばれ、多くの参拝者が訪れている。



② 浜松八幡宮

三方ヶ原合戦で敗走した家康は、浜松八幡宮の大橋の洞に逃げ込んだという伝説が残っている。

③ 椿姫観音

台座に人物が乗って記念写真を撮影できる



⑤ 西来院 月窟廟(築山御前の廟堂)

家康の正妻で井伊家の血を引く悲劇の女性築山殿の墓場



⑥ 太刀洗の池

築山殿を斬った刀を洗った池。百年赤く染まつたという伝説がある。



④ 犀ヶ崖 古戦場跡の碑

大敗の後、崖に布の橋をかけて武田に矢報いた家康の奇襲の場



③ 椿姫観音

椿姫とは、引間城第5代城主である城主である。お田鶴の方のこと。お田鶴の方は永禄十一年(1568)に徳川家康公に攻められ討ち死にする。家康公の正室、築山御前はその死を哀れに思い、塚の周囲に白株あまりの椿を植えてお田鶴の方の靈を祀ったことから椿姫観音と呼ばれている。





② 新野左馬助公展示館



① 左馬武神社

井伊直政の命の恩人で「情けの武将」と語り継がれる新野左馬助の墓所と伝えられている



新野左馬助公展示館リーフレット
新野左馬助公・祐椿尼の里巡り



左馬武神社入口
後方の森が左馬武神社

新野左馬助公展示館リーフレット
新野左馬助公・祐椿尼の里巡り

左馬武神社から眺め
左馬武神社

徳川譜代の大名井伊家は、近江国彦根の本家掃部頭（かもんのかみ）井伊家と、別家として兵部少輔（ひょうぶのしょく）井伊家があります。兵部少輔井伊家は、箕輪城主であった井伊直政の長子・直継が名を直勝に改め、元和元年（二六一五）に、上野国内に三万石を分与され、安中藩を立藩しました。この直勝は、高崎から近江佐和山に父の直政と共に移り、慶長九年（二六〇四）、彦根に築城して彦根城主となりました。ところが、幕府の命により彦根藩は弟の直孝が継ぐことになり、直勝は分家して安中藩を立藩することとなるのです。

直孝は、慶長八年（二六〇三）の十四歳の時から徳川秀忠に仕え、同十三年（二六〇八）に書院番頭となり、吾妻郡の五千石を与えられました。同十五年（二六一〇）には大番頭となり、白井領内で五千石を加増され、一万石の大名となります。前述したとおり、元和元年（二六一五）に彦根城十五万石の家督を相続し城主となります。これは、大坂冬の陣での活躍により、幕府から任命されたのではないかでしょうか。

直孝が白井領を領有していた時期は、松平（戸田）康長が慶長七年（二六〇二）に他国へ移封になり、西尾忠永が元和二年（二六一六）に白井領に入封するまでの期間、白井藩領は藩主が不在でした。そのため、直孝が領有していたものと思われます。白井藩の歴史を紹介するとき、直孝が「白井藩を経て彦根藩主になった」とする見方もありますが、「上野国内一万石領有を経て…」の記述がより正確であると考えます。

井伊直孝と白井藩

コラム 井伊家と群馬

白井宿 観交（光）案内人の会会長 須田 孝

新野左馬助親矩（にいのさまのすけちかのり）は今川氏の一族で、遠江国・新野（静岡県御前崎市）を領有し、今川氏に忠誠を尽くしていました。永禄五年（二五六二）、井伊直親が小野政次の讒言により謀反の疑いをかけられ、今川氏に狙われていた。その時、虎松をかくまつたのが左馬助だとする説がある。通説では、三河の鳳来寺に逃れたとされるが、鳳来寺に移ったのは今川家が没落してからで、左馬助が今川氏真に虎松の助命を求め、許しを得て養育したという。

左馬助の妹・祐椿尼（ゆうちんに）は、井伊家二十二代当主の直盛に嫁いでおり、直虎の母。左馬助は直虎の叔父にあたる。祐椿尼は、兄の左馬助に虎松をかくまつよう役割を果たしたのだ。左馬助は、永禄七年（二五六四）に今川家に背いた引間城主の飯尾連竜（いのおつらたつ）を攻めた合戦で戦死し、後継ぎのいなかつた新野家は途絶えた。左馬助亡きあとは、直虎が虎松を養育したという。

井伊家では、新野家への恩義を忘ることなく、左馬助の忠節を代々語り継ぎ、幕末には井伊直弼大老が中心となり新野家を再興した。直弼は親矩の墓参を計画している折、桜田門外の変（安政七年・一八六〇）に倒れ、叶えることができなかつたという。



直政を救つた武将 新野左馬助

恩義と忠節が伝わる御前崎

直虎をめぐる新野家 井伊家家系図（略図）

奥山因幡守朝利妹

新野左馬助親矩（にいのさまのすけちかのり）は今川氏の一族で、遠江国・新野（静岡県御前崎市）を領有し、今川氏に忠誠を尽くしていた。永禄五年（二五六二）、井伊直親

が小野政次の讒言により謀反の疑いをかけられ、今川氏により謀殺され、直親の子・虎松（後の直政）の命も今川家に狙われていた。その時、虎松をかくまつたのが左馬助だとする説がある。通説では、三河の鳳来寺に逃れたとされるが、鳳来寺に移ったのは今川家が没落してからで、左馬助が今川氏真に虎松の助命を求め、許しを得て養育したという。

左馬助の妹・祐椿尼（ゆうちんに）は、井伊家二十二代

当主の直盛に嫁いでおり、直虎の母。左馬助は直虎の叔父にあたる。祐椿尼は、兄の左馬助に虎松をかくまつよう役割を果たしたのだ。左馬助は、永禄七年（二五六四）に今川家に背いた引間城主の飯尾連竜（いのおつらたつ）を攻めた合戦で戦死し、後継ぎのいなかつた新野家は途絶えた。左馬助亡きあとは、直虎が虎松を養育したという。

井伊家では、新野家への恩義を忘ることなく、左馬助の忠節を代々語り継ぎ、幕末には井伊直弼大老が中心となり新野家を再興した。直弼は親矩の墓参を計画している折、桜田門外の変（安政七年・一八六〇）に倒れ、叶えることができなかつたという。

左馬助の妹・祐椿尼（ゆうちんに）は、井伊家二十二代当主の直盛に嫁いでおり、直虎の母。左馬助は直虎の叔父にあたる。祐椿尼は、兄の左馬助に虎松をかくまつよう役割を果たしたのだ。左馬助は、永禄七年（二五六四）に今川家に背いた引間城主の飯尾連竜（いのおつらたつ）を攻めた合戦で戦死し、後継ぎのいなかつた新野家は途絶えた。左馬助亡きあとは、直虎が虎松を養育したという。

井伊家では、新野家への恩義を忘ることなく、左馬助の忠節を代々語り継ぎ、幕末には井伊直弼大老が中心となり新野家を再興した。直弼は親矩の墓参を計画している折、桜田門外の変（安政七年・一八六〇）に倒れ、叶えることができなかつたという。

左馬助の妹・祐椿尼（ゆうちんに）は、井伊家二十二代当主の直盛に嫁いでおり、直虎の母。左馬助は直虎の叔父にあたる。祐椿尼は、兄の左馬助に虎松をかくまつよう役割を果たしたのだ。左馬助は、永禄七年（二五六四）に今川家に背いた引間城主の飯尾連竜（いのおつらたつ）を攻めた合戦で戦死し、後継ぎのいなかつた新野家は途絶えた。左馬助亡きあとは、直虎が虎松を養育したという。

井伊家では、新野家への恩義を忘ることなく、左馬助の忠節を代々語り継ぎ、幕末には井伊直弼大老が中心となり新野家を再興した。直弼は親矩の墓参を計画している折、桜田門外の変（安政七年・一八六〇）に倒れ、叶えることができなかつたという。

今川家

氏真の祖母
寿桂尼
浅丘ルリ子

今川家当主
今川氏真
尾上松也

二
春(早川殿)
西原亜希

氏真の正室
関口氏経
矢島健一

織田家

織田家臣
織田信長
市川海老藏

目付衆

井伊家三人衆
菅沼忠久
阪田マサノブ

井伊家三人衆
近藤康用
橋本じゅん

井伊家三人衆
鈴木重時
菅原大吉

堀江城城主
大沢基胤
嶋田久作

山伏
松下常慶
和田正人

松平家

松平家当主
松平元康(徳川家康)
阿部サダヲ

元康(家康)の正室
瀬名
菜々緒

松平家家臣
石川数正
中村織央

松平家家臣
酒井忠次
みのすけ

直虎・直政関連略年表

室町時代	天文13年(1544) 井伊家当主・直宗の弟、直満と直義が、家老小野和泉守道高のざん言により、駿府で今川義元に誅殺される。 直満の子・亀之丞(9歳)も命を狙われ、信州に身を隠す。
	天文18年(1549) 松平千代(徳川家康)、駿府へ人質として入る。
	弘治元年(1555) 信州より亀之丞(20歳)帰国。井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
	永禄3年(1560) 桶狭間の戦い。井伊直盛、今川義元に従い出陣。桶狭間にて織田信長と戦い義元と共に討死。 直親(25歳)が井伊家当主を継ぐ。
	永禄4年(1561) 虎松(井伊直政)誕生。
	永禄5年(1562) 井伊直親(27歳)、家老小野政次のざん言により今川氏真の呼び出しを受け、駿府に申し開きに行く道中、今川家臣に攻められ討死。
	永禄8年(1565) 井伊直盛の娘・次郎法師、「直虎」と名乗り地頭職につき、虎松(4歳)の後見人となる。
	永禄11年(1568) 今川氏真が井伊領に出した徳政令を実行する。これにより直虎の地頭職は廃止され、家老小野但馬守が井伊領を支配。直後に徳川家康が遠江に侵入し、井伊谷城を接収する。虎松は三河鳳来寺に逃れる。
	永禄12年(1569) 今川氏滅亡。小野但馬守は井伊谷から逃亡するが、捕らえられて処刑される。
	元亀3年(1572) 三方ヶ原の戦いで徳川家康が武田信玄に大敗する。
	元亀4年(1573) 足利幕府崩壊。井伊谷は武田軍により焼き払われる。武田信玄病死。
	天正3年(1575) 虎松(15歳)、徳川家康に士官を認められ、万千代と名を改める。長篠の戦い。
	天正10年(1582) 本能寺の変で、織田信長、明智光秀に討たれる。直虎逝去。万千代、元服し井伊直政を名乗る。
	天正12年(1584) 小牧・長久手の戦い。直政、武功を上げ六万石に加増。諸大名から「井伊の赤鬼」と恐れられる。
	天正18年(1590) 小田原の陣。直政、上野国(こうすけのくに)12万石を与えられ、箕輪(みのわ)城の城主となる。
	慶長5年(1600) 関ヶ原の戦い
	慶長7年(1602) 直政、関ヶ原の戦いの傷がもとで死没。

龍潭寺

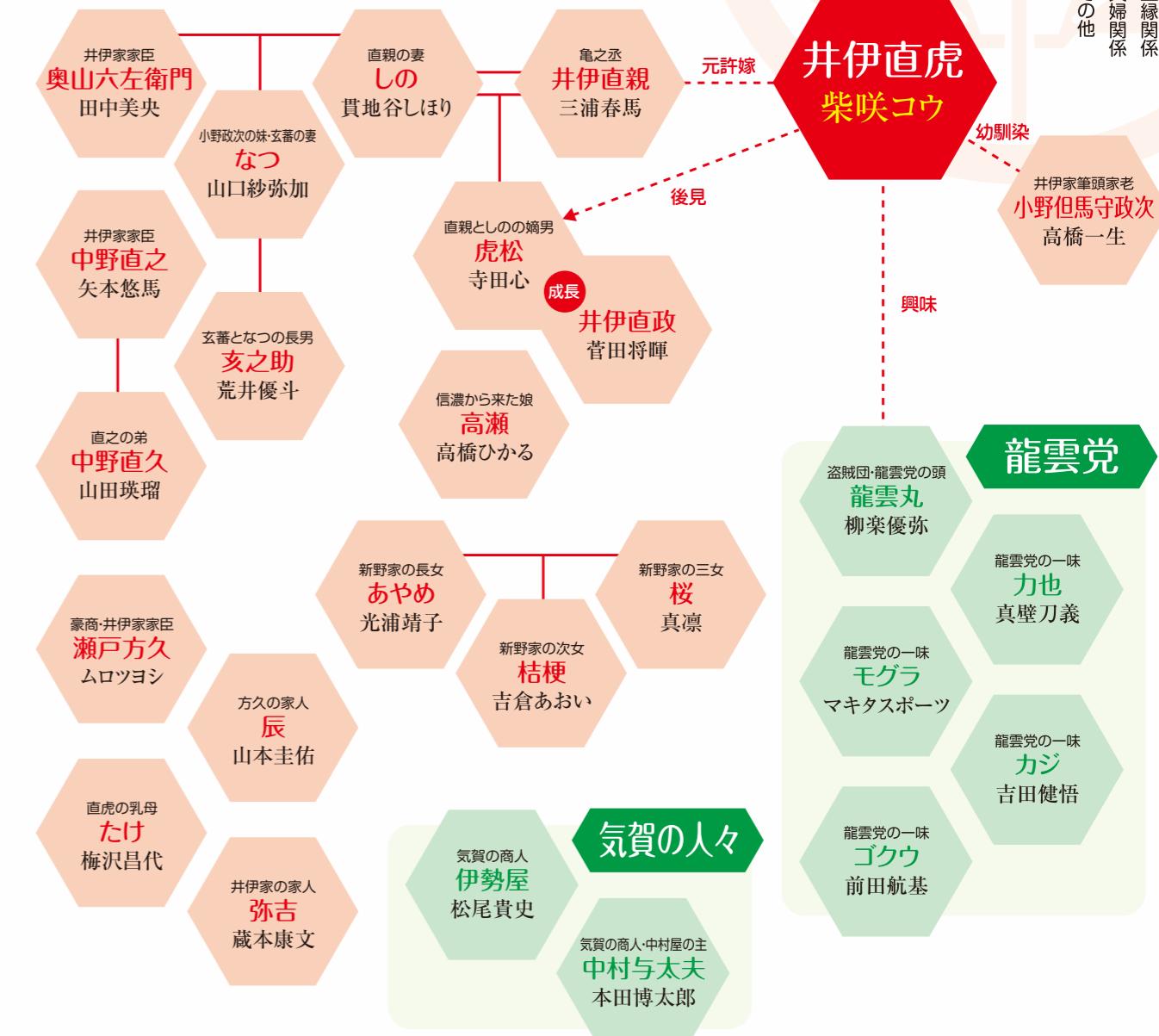
菩薩寺の住職
南渓和尚
小林薰

菩薩寺の僧侶
傑山
市原隼人

菩薩寺の僧侶
昊天
小松和重

人物関係図
おんな城主直虎

夫婦関係
その他



龍雲党

盗賊団・龍雲党の頭
龍雲丸
柳葉優弥

龍雲党の一昧
力也
真壁刀義

龍雲党の一昧
モグラ
マキタスボーツ

龍雲党の一昧
カジ
吉田健悟

井伊の領民たち

瀬戸村の長
甚兵衛
山本學

瀬戸村の百姓
八助
山中崇

瀬戸村の百姓
角太郎
前原滉

祝田村の百姓
福蔵
木下隆行

祝田村の百姓
富介
木本武宏

祝田村の神社の禰宜
五平
おかやまはじめ

岡直三郎商店 大間々工場 様

群馬県みどり市大間々町

天然醸造の醤油を作り続けて一百三十年
伝統を残し、安心・安全、衛生的な新工場を竣工

岡直三郎商店様の大間々新工場が竣工しました。新工場は、伝統的な製造方法を守りながら、
安心・安全、衛生面に配慮し、時代の要請に応えた工場となっています。(株)ヤマトは建設プロダ
クト(企画・設計・施工)を担当しました。

住 所	〒376-1010 群馬県みどり市大間々町
店舗営業時間	9時～17時・無休(年末年始を除く)
電話番号	0277-172-11008
FAX番号	0277-172-11016



樽の中では熟成が進む醤油。東蔵には24個の樽があります



にほんいち醤油
国産の有機丸大豆と有機小麦、国産塩を原料に、木桶に仕込み
一年以上の歳月と手間ひまをかけ、じっくりと発酵、熟成させました。
「日本一」の名にふさわしい風味とうまみの逸品です。
にほんいち醤油「一番しぼり」「二段仕込み」は、農
林水産省登録認定機関OCIAジャパンの認定を
受けた有機醤油です。認定番号08-054B



天明七年(1787)、近江商人
の岡忠兵衛は、大間々の地に醤
油醸造、荒物業を扱う河内屋
(岡直三郎商店の前身)の屋号
を掲げ、起業しました。以来二
百余年に亘り、創業時より変
わらぬ木桶仕込み・天然醸造の
しょうゆ造りの暖簾が守られ
ています。

お客様
の声

新工場竣工にあたつて——株式会社岡直三郎商店 代表取締役 岡 資治

おかげさまで、当社は今年、創業230年を迎え、長年にわたり醤油醸造を続けてまいりました。この業界の一部には、古いから良い、古いから許されるといった風潮がありますが、2020年までは食品業界全体がHACCPに対応していくこととなり、醤油の業界でも例外ではなく、同じ基準を求められます。従来は伝統を守ることに大きな価値を見出していました

が、時代の変化とともに業界も変わらなければなりません。人の口に入る食品は、特に安心安全で衛生的な設備が必要と考えます。

今回解体した西蔵という蔵は、みどり市の教育委員会から、群馬県の中で木造でこれだけ大きな立派な建物は大変貴重なので、どうにか保存してもうえないかとの話がありました。また、煙突があつたのですが、それは市のシンボル的な存在で、みどり市の紹介冊子にも3本の煙突が掲載されており、残してほしいとの依頼がありました。行政の意向もわかるのですが、東日本大震災の時に、この建物がつぶれるのではないかと思いました。大きな揺れで、煙突は波打ち、左右に煉瓦をまき散らしていました。倒れそうになりながらも、昔の建物は丈夫に出来ており、倒壊は免れました。工場の屋根は損傷しましたが、幸いにも人的被害が無くて胸をなでおろしました。しかし、今後大きな災害が発生し、事故になれば私たちの責任になるので、今回はリスクのある建物から解体していくこと

しました。このような経緯で、改修を決意しました。

新しい建物の計画では、安全安心、衛生面を第一にして、コンパクトにしました。従来の、せまい、寒い、汚いという工場の作業環境を開拓すべく、作業効率と安全性を重視した工場にしようと考へました。

今回の工事に携わった当社の関係者はよくわかっていると思いますが、ヤマトさんの改善提案は優れています。計画段階から各プロセスの完成イメージを三次元にて見える化した表現で、普通では気づかない詳細な部分まで事前チェックが行え、手戻りを最小限にすることができます。特に同社のサポートセンターでは、検証時に実際の空間・生産ラインなどを体感しました。実際に完成してみると、思っていた通りの建物・生産設備が出来たことに感謝しています。

今後とも、地域の皆様の益々のご愛顧のほど、お願い申し上げます。



構造が整然と並ぶ東蔵の内部。天然醸造の仕込みでは、発酵、熟成の工程を自然の気候と四季の温度変化に任す



岡 資治 社長

おかげさまで、当社は今年、創業230年を迎え、長年にわたり醤油醸造を続けてまいりました。この業界の一部には、古いから良い、古いから許されるといった風潮がありますが、2020年までは食品業界全体がHACCPに対応していくこととなり、醤油の業界でも例外ではなく、同じ基準を求められます。従来は伝統を守ることに大きな価値を見出していました

が、時代の変化とともに業界も変わらなければなりません。人の口に入る食品は、特に安心安全で衛生的な設備が必要と考えます。

今回解体した西蔵という蔵は、みどり市の教育委員会から、群馬県の中で木造でこれだけ大きな立派な建物は大変貴重なので、どうにか保存してもうえないかとの話がありました。また、煙突があつたのですが、それは市のシンボル的な存在で、みどり市の紹介冊子にも3本の煙突が掲載されており、残してほしいとの依頼がありました。行政の意向もわかるのですが、東日本大震災の時に、この建物がつぶれるのではないかと思いました。大きな揺れで、煙突は波打ち、左右に煉瓦をまき散らしていました。倒れそうになりながらも、昔の建物は丈夫に出来ており、倒壊は免れました。工場の屋根は損傷しましたが、幸いにも人的被害が無くて胸をなでおろしました。しかし、今後大きな災害が発生し、事故になれば私たちの責任になるので、今回はリスクのある建物から解体していくこと

青森県 中泊町 様

省エネ設備を導入した新庁舎が完成

平成二十九年月に青森県北津軽郡中泊町様の新庁舎が完成しました。新庁舎は低炭素社会の実現に配慮しており、庁舎内の冷暖房システムには再生可能エネルギーの「木質ペレット」を利用したシステムが採用されています。また、省エネ型ヒートポンプエアコンを導入し、エネルギー消費とランニングコストの削減が図られています。さらに、防災拠点としての役割を持ち、行政が止まるところなく災害対策が行えるように、七十二時間連続運転可能な発電設備を備えています。(株)ヤマトは空調設備工事を施工しました。



新庁舎の外観
延床面積 4,203.9m²
鉄骨造2階建
文化センター「バルナス」に隣接

中泊町のみどころを紹介



中泊町役場・中泊町水産商工観光課
〒037-0300
電話 0173-57-2111(代)
<http://www.town.nakadomari.gv.jp/>

お問い合わせ



中泊町水産商工観光課長
藤田 康久 様

青森県北津軽郡中泊町は、日本海沿岸部の小泊エリアと津軽半島のほぼ中央に位置する中泊エリアに分かれています。小泊エリアは日本海の絶景をはじめ、太宰治のゆかりの地、海産物など観光資源が豊富。中里エリアは文化センター、博物館などの文化施設や農産物の即売所があり、中泊町は観光食の両面で恵まれており、是非訪れてみたい魅力的なスポットです。

当町では、津軽国定公園・県立自然公園の指定地域があり、夏には海水浴場など県内外から多くの観光客が訪れ、四季を通じて観光をテーマとした各種イベントを実施しております。「中泊町は高級魚メバルの水揚げ青森県ナンバーワン」という実績に着目して、誕生したのが「中泊メバルの刺身と煮付け膳」であり是非、ご堪能いただければと存じます。

活力あふれる産業のまちづくりをめざし、「大地の恵みと海の幸 心ひとつに希望の町」を将来像に掲げて産業の発展を進めているものであります。

「中泊町は高級魚メバルの水揚げ青森県ナンバーワン」という実績に着目して、誕生したのが「中泊メバルの刺身と煮付け膳」であり是非、ご堪能いただければと存じます。



① ライオン海道

ライオン海道にはライオンゲートブリッジ(ライオンベイブリッジ)のほか、爽快なドライブコースで途中にライオン岩が望める



② 小説「津軽」の像記念館

太宰治の自伝的小説津軽にまつわる展示や、太宰の小守で小泊出身のタケさんが太宰の想いなどを語るビデオ上映がある



③ 七つ滝

潮流が七段の断崖を駆け下りて滝となって流れ落ちる



④ 徐福の像

徐福とは紀元前219年頃(弥生時代)に不老不死の仙薬を求めて中国を出航し津軽半島小泊にある稚娘崎に上陸。そのまま日本にどまり、大陸の文化や技術を伝えたといつ



⑤ 折腰内海岸の夕陽

日本海に溶け込む夕景は息をのむ美しさ



⑥ 道の駅こどまり

豊富な海の幸の販売とレストランがある



中泊町の名物

シジミ・イカなど中泊町の名産品、役場

